

事業所名 グループホーム さっちゃん家

日付 平成18年2月13日
 特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験

評価調査員 老人保健施設介護経験5年、居宅介護支援事業所介護経験5年

自主評価結果を見る (まだリンク先がありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

農家を改造したデイサービスを併設したグループホーム。近所のお宅に「こんにちは」と訪問しやすい雰囲気をかもし出している。丁度、とんどの支度が出来つつあるところにお邪魔した。町内の実行委員の方、職員と一緒に準備をしているところに、園児と先生が訪問、顔見知りの関係でわくわく顔で来る。こんなに地域の中に溶け込んでいるホームは利用者にとっては、たとえ仮住まいと思えなくても自然に穏やかになっていくように思えた。

また利用者が「そのひとらしく」をモットーに、職員が気配り、目配り、心配りのアンテナを自然の動きの中に張り巡らしているところがうれしい。アンテナを感じさせないのももっとうれしい。

利用者の笑顔は温もりを感じた。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

少し出っ張ってひっかかるかな?と思われるところは、近所の方のボランティアで修繕完了。住み易くなった。身体機能維持については、生活リハビリだけでは現状維持が難しいのかなと思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	昨年は「気づきシート」と称して利用者の思いに気づく事に重点を置き、どう支援したらいいかを職員皆で話し合い、現在もその人らしい生き方を模索実践中です。今年は「利用者の望みを叶える」をテーマに早速A氏からスタート、「ボーリングがしたい」の願いが叶っている。 地域との共生はボランティア(話し相手、稲刈り、草取り、家の補修等)が多く関わっている。田植え、稲刈り、とんど焼き、餅つき大会は保育園児も加わって、草取りなどは利用者も加わって、近所の方、婦人会の方々も参加して、賑やかな行事を繰り広げて、人の輪に囲まれてうらやましい限り。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

住環境はすでに落ち着いた雰囲気がある。昨年1年間取り組んだ気づきシートの活用で職員が気づきの感性を磨き、利用者の気持ちを少しずつ理解できている、続いて介護技術の向上について職員が共有しており、職員と利用者が冗談を言い合って笑いながら安心して生活しているのが現状です。保育園児を迎えて、ホームの庭でとんど焼きが行われて、ホームの利用者やデイサービスの利用者も無病息災を念ひながら、おぜんざいを食べていた。準備、後片付けは地区住民、ボランティア、法人内の応援隊とマンパワーは事欠かない、すばらしい人の輪が出来ている。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	入居間もない人は、慣れないために起こる現象が沢山あり、記録も多くされていたが、次第に記録も少なくなり、落ち着いた暮らしをしていることがよくわかる。一步一步、基本的な事を見直して、しっかりと身に付け、気づきのアンテナを張り、タイミングの良い関わり方を考えている。しかし、利用者に接している職員の姿は気負いなく自然の行動に見えて心地よい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か、		
	昨年は「気づき」に重点を置いて、利用者のことを良く知ろうと努めた。また今年からはセンター方式の一部シートを活用して24時間の心の変化を観察、気づいた事を記録、関わるタイミングを見つけている。柔らかな顔で、職員と家事と一緒にしている利用者、外部の人は「えっ、ボランティアの方かと思った」とその人の落ち着いた表情態度に驚かれるそう。利用者がグループホームの中で、活発に行動して生活している1つの成功例を見た。 ヒヤリ・ハットも小さなことも記録して、会議には必ず議題にして皆のものとして全員が注意をしている。		